

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果は、昨年度に比べ正答率が上がっている。国語・算数・理科全て全国平均と同等か上回っている。国語においては東京都平均を上回っている。

○落ち着いた学習に取り組む児童が多い。自分の考えをまとめたり、友達に分かりやすく表現し伝えたりする力を伸ばす必要がある。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○語彙力をつける指導の工夫が必要である。

○自分で学習方法や学習形態を選べる場面を増やす。

○学習内容を定着させる指導の工夫が必要である。

○ICTを効果的に活用する方法を学び、活用する場面を増やす。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○学ぶ楽しさを広げる

- ・教えて考えさせる「先行学習」と「問題解決学習」を使い分け、児童の学習意欲を引き出す。
- ・各学年で生活科・社会科見学等の校外学習を年間2回以上実施し、校外での学びも充実させる。
- ・地域コーディネーターと連携し、保護者や地域の方々とともに活動するプログラムを開発する。

○「読み解く力」を高める

- ・朝読書などを通して読書週間を身に付けさせ、読むことを楽しめる児童を育てる。
- ・共書きによって、書く力を高め、効率的な学習ができるようにする。
- ・各学年でプレゼンテーションを含め、話す活動を計画的に行い、分かりやすく伝える技能を身に付けさせる。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1

板橋区授業スタンダードSの実践

○各教科等の授業において、めあて→自力解決→協働で解決→まとめ・振り返りの流れを定着させる。
○課題解決のために、学習方法や学習形態を選べる場面を意図的につくる。

視点2

「読み解く力」の育成

○教科書を使い倒す授業を展開する。
○本を身近に置き、朝読書をはじめ読書に取り組む時間を増やす。
○辞書を手に置き、どの教科でも使用することで語彙を増やす。

視点3

総合的な学習の時間との連携

○地域や身近な自然をテーマとして、児童の実態に合った単元を全学年で設定する。
○児童自身で課題を設定していけるように、発問や資料提示を工夫する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進
板橋のiカリキュラムの活用

○小中一貫教育の取組を通して、近隣のよい実践や取組を生かした授業を展開する。

○地域との関わりを深め、郷土板橋を愛する心を養うために、地域の伝統文化や行事にふれる機会を設定する。地域の人材を活用した学習活動や児童と地域の人が共に学ぶ活動を生活科、総合的な学習の時間、社会科、特別の教科道徳を中心に展開していく。

カリキュラム・マネジメントの推進

○各教科や総合的な学習の時間で、「先行学習」と「問題解決型の授業」を使い分け、協働して学び合う態度を育てる。また、生涯にわたって学び続ける意識と課題を見付け粘り強く探究する態度ならびに自ら課題をもち、学び続けるための資質・能力を養う。

○総合的な学習を中心とした各教科の年間指導計画（単元配当表）を前年度冬休みまでに作成し、すでに行った単元の見直し、改善を行う。

ICT環境の適切な維持と活用
個別最適な学び・協働的な学びの実現

○「プログラミング」を中心とした学習内容を、各学年の教科・領域等に適切に位置付け、実施する。

○一人一台端末を活用して、すららドリル等の個に応じた学習や調査活動、表現・製作、発表や話し合い、共同製作、インターネットを活用した学習など個別最適な学びと協働的な学びを実現する。